

科目名 (英)	衛生管理Ⅲ (Hygiene)	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	鈴木久美子/米山及生
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
						曜日・時間	火 水
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容専門学校卒業後、美容サロン(表参道)にて美容師として5年以上勤務。その後ヘアメイクアーティスト(フリーランス)として各撮影(CM・広告・カタログ)やコレクション・歌劇などのヘアメイクなどを担当し活動を広げる。また、ブライダルのヘアメイクとしても10年以上従事し、現在も主にbride and groomのヘアメイク、アテンドを担当。将来皆さんが美容業に就くにあたっていろいろと参考になる知識や現在の状況、情報をお伝えする事ができます。							
目的:美容業は不特定多数の人の皮膚や毛髪に直接触れ、刃物や薬剤などを用いて業務をするところにあり、その業務に就くうえで個人としての衛生を保つだけでなく、業を通して公衆衛生の維持と増進への責務の重要性を知る必要がある。また、感染症の正しい知識と拡大まん延予防対策、消毒法などを学ぶことにより、社会生活においても不安を与えず実践できるということを理解する。							
【授業を通じての到達目標】							
衛生管理の意義と本質を明らかにする。また、～4国家試験科目でもあるため、各項目の重要点をまとめたプリントや問題集を用いてより理解を深める。また、問題集等を利用し苦手箇所を反復し克服する。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
日本理容美容教育センター発行『衛生管理』教科書、プリント、問題集等							
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	講師自己紹介、オリエンテーション、授業科目の概要や進め方、公衆衛生の概要						
2	公衆衛生の課題と領域《美容師と公衆衛生、保健所と美容業》						
3	フィードバック・保健《母子保健(出生率の低下)・母子の健康管理》・小テスト					4点	
4	フィードバック・保健《成人・高齢者保健(死亡率の低下・平均寿命の延び)》						
5	フィードバック・保健《成人・高齢者保健(生活習慣病)》・小テスト					4点	
6	フィードバック・保健《高齢者の保健と福祉・精神保健》、重要ポイント再確認・小テスト					2点	
7	中間試験					20点	
8	環境衛生の概要《環境衛生の内容、目的と意義》						
9	フィードバック・空気環境《空気と健康》・小テスト					4点	
10	フィードバック・空気環境《温熱環境と健康》						
11	フィードバック・衣服・住居の衛生《採光と照明》・小テスト					4点	
12	フィードバック・住居の衛生《冷暖房》・上下水道						
13	フィードバック・廃棄物・衛生害虫・定期テスト対策・小テスト					2点	
14	定期テスト					60点	
15	定期テスト解答解説・総まとめ						
【特記事項】毎回必ず名札を付けること。中間・期末試験時は学生証も持参すること。毎回 デバイスと教科書、プリント記入にあたり筆記用具(マーカー含む)を必ず持参すること。				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	cosmetik chemisutory 化粧品化学Ⅱ	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	浅川
	学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時間
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容サロンで美容師として30年以上勤務した経験を活かし、実際に扱う製品の例を紹介しながら分かりやすく説明します。美容師国家試験合格の為だけではなく、職業上、必ず使用する化粧品の知識は大切である事を伝えます。							
【授業を通じての到達目標】							
美容とは美しく変容させること。 美しさとは内側と外側の連携にて表れる現象です。 素晴らしい化粧品を使っても、適切な使用方法やどんな化粧品がその方に必要なのかわからないでは本領を発揮することはできません。 また、疲れや悩み、栄養不良、病気などで表情が沈んでいては映えません。 お客様や身近な人の「人を美化し、容姿を変え、魅力を増す」ための化粧品の知識と健康や栄養、静養方法などの相談に応えられる美容師を目指します。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・化粧品化学テキスト ・配布資料(化粧品を理解するための基礎化学)				復習を1科目1時間を目安に行う。			
回	授 業 概 要						テスト配点
1	その他の機能性配合原料、ビタミンとミネラル、ポリフェノール、フラボノイド						2
2	雑貨原料、「化粧品の成り立ち」の復習						2
3	化粧品の効果と使用プロセス、クレンジング用、コンディショニング用						2
4	トリートメント用						2
5	メイクアップ製品の種類と剤形、ベースメイクアップ化粧品						2
6	ポイントメイクアップ(アイ・まつ毛・ネイル)						2
7	ヘアクレンジング料、ヘアコンディショニング料、ヘアスタイリング料						20
8	パーマ剤①						1
9	パーマ剤②						2
10	ヘアカラー製品①						1
11	ヘアカラー製品②						2
12	スカルプケア製品						1
13	化粧品化学定期試験(模擬試験①)						0
14	化粧品化学定期試験(模擬試験②)						0
15	化粧品化学定期試験(本試験)						60
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	国家試験対策講座	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	半沢・佐々木・山下・鷲尾・飯野・松永・ 張・田丸・萩尾・井坂
	学科・コース	美容師科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	120 (4)	開講区分 曜日・時間
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) サロンワークの継続。撮影ブライダルに携わる。 美容学校での講師の経験を基に、現場で通用する技術、美容師免許取得の為の技術を教える。							
【授業を通じての到達目標】  国試合格レベルに上げる							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授業概要					テスト配点	
1	全頭20分で仕上げる						
2	全頭20分で仕上げる						
3	全頭20分で仕上げる						
4	全頭20分で仕上げる						
5	全頭20分で仕上げる						
6	全頭20分で仕上げる						
7	全頭20分で仕上げる						
8	国試課題						
9	国試課題						
10	国試課題						
11	国試課題						
12	国試課題						
13	国試課題						
14	国試課題						
15	国試課題						
【特記事項】 定期テストは模擬試験の結果をもとに評価を行います。				【評価について】 ●出席・授業態度・提出物の状況に応じて100点満点で評価を実施 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点)/E評価(出席不良・評価資格喪失)/ F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	国家試験特別講座	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	半沢・田丸・張・松永・山下・藤尾・飯野・井坂・萩尾・佐々木
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
学科・コース	美容師科					曜日・時間	集中
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) サロンワークの継続、撮影、ブライダルに携わる。美容学校での講師の経験をもとに、現場で通用する技術、美容師免許取得のための技術を教える。 またそのための国家試験免許取得に向けて、対策講座を行い国家試験合格を目的とした授業を展開していく。							
【授業を通じての到達目標】  国家試験合格レベルの技術を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	国家試験に向けて衛生を覚える。						
2	全頭をタイム内に仕上げる。						
3							
4							
5							
6	模擬試験に向けての練習。						
7	模 擬 試 験						
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
【特記事項】 定期テストは模擬試験の結果をもとに評価を行います。				【評価について】 ●総合評価 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	就職講座Ⅱ	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	尾崎・長谷川・安和・松岡・大塚
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
						曜日・時間	水 金
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>サロンでの実務経験のある職員が、就職活動に必要なスキル・国家試験に対する取り組み方などをグループワークを通して授業展開を実施する。美容師(職業人)として必要な身構え・気構え・心構えを理解し、目標に向けて、行動する事が出来る。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>国家試験への意欲を高め、授業に臨む姿勢をつくることができる。 就職活動が活発になり、意欲的に取り組むことができる。 学校行事を通して目標設定やスケジュール管理を行えるようになる。国家試験の概要を理解し、必要な知識を身につけていく。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テ ス ト 配 点	
1	国試筆記模試問題 ・「社会人基礎力」を高める① 前に踏み出す力						
2	国試筆記模試問題						
3	5校合同統一模試 筆記試験						
4	「社会人基礎力」を高める② 考え抜く力 過去の失敗から課題を発見し次回につなげる						
5	国試筆記模試問題					小テスト(10点満点)	
6	マイム袴展示会説明・ベルリンピックについて						
7	国試筆記模試問題・第1回模擬試験について・白衣サイズ確認					中間試験20点	
8	社会人基礎力」を高める③ チームで働く力 / 国家試験願書記入・シザー研ぎ告知						
9	国試筆記模試問題 / 卒アル初校チェック&写真再度回収呼びかけ						
10	ベルリンピックについて / 卒業式 事前授業①						
11	第2回模擬試験について / 美容技術理論の勉強					小テスト国家試験問題(10点満点)	
12	美容技術理論の勉強						
13	美容技術理論の勉強						
14	国試筆記模試問題						
15	国試筆記模試問題					定期試験60点	
【特記事項】				【評価について】			
				<p>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</p> <p>●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)</p> <p>●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</p>			

科目名 (英)	美容技術理論Ⅳ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	市川 鈴木
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
						曜日・時間	火 水
【学習の目的】 (※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
美容師としてサロンワーク、スタジオワーク、各種コンテストの経験を5年以上経て、現在、フリーで雑誌、TVのヘアメイク、美容師として活動する幅を広げている。教員としては15年以上携わっている。							
美容師国家試験の合格を目指す学生の為、現場の現状を伝えながら、美容技術についての知識を深めていく							
【授業を通じての到達目標】							
美容師国家試験合格を目指し、各分野の美容技術を理解し、国家試験問題に対応できるようになる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
美容技術理論Ⅰ教科書、筆記用具（マーカー含む）初日は教科書Ⅱも持参							
回	授 業 概 要						テスト配点
1	美容技術理論序章、美容用具						
2	シャンプーイング						
3	シャンプーイング・ヘアデザイン						5点
4	ヘアデザイン						
5	ヘアカッティング						5点
6	ヘアカッティング復習、中間テスト前復習						
7	中間テスト						20点
8	パーマメントウエーピング						
9	パーマメントウエーピング復習						5点
10	ヘアセッティング						
11	ヘアセッティング復習						
12	ヘアカラーリング						
13	ヘアカラーリング復習						5点
14	I IIの復習						
15	定期テスト						60点
【特記事項】				【評価について】			
				<ul style="list-style-type: none"> <li>●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点</li> <li>●評価</li> <li>A評価（90～100点）/B評価（80～89点）/C評価（70～79点）/D評価（60～69点）</li> <li>E評価（出席不良・評価資格喪失）/F評価（0～59点・不合格）</li> <li>●評価方法</li> <li>評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。</li> </ul>			

科目名 (英)	美容実習Ⅳ	必修 選択	必須	年次	2年	担当教員	飯野・松永・張・田丸・井坂・ 半沢・佐々木
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	150 (5)	開講区分	後期
				曜日・時間	月・火・水・金		
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
国家試験実技科目 実務経験20年以上の教員が担当 第二課題であるオールウェーブセッティングを合格レベルに到達させ、国試審査基準を理解した作品に作成するための技法を指導。							
【授業を通じての到達目標】							
国試課題の科目を合格点まで持っていく。レベルアップと不得意個所の改善。審査項目を取り入れる作品作り。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
道具一式・衛生道具一式・ノート・教科書・筆記用具							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	1年次の復習 確認 全頭35分完成 7段階構成確認						
2	1段目 2段目 3段目までタイムアップ スカルプチュアカールの完成度を上げる。 3段目までのバランス強化。						
3	フィンガーウェーブ強化 7段ウェーブ幅 くりぬき部分の確認						
4	4段目 5段目強化 リフトカールの完成度を上げる。						
5	6段目 メイポールカール					5点	
6	7段目クロッキノールカール カールの位置とピンギ強化					5点	
7	中間試験 全頭30分 7段ウェーブバランスとカールの位置					20点	
8	ウェーブ リッジ強化 毛流れハーフウェーブになっているか 割れや重なりがないか						
9	左右ウェーブと中央カールのエリアの確認 3等分になっているか						
10	ステムの方向性 リフトカールのステムおさまりの見直し						
11	耳周りのウェーブ リッジ 幅の強化 右側ウェーブ強化						
12	審査項目意識しながら完成度を上げる。						
13	全頭25分を仕上げる。不得意個所の改善。					5点	
14	定期テストに向けてタイムの確認。タイムアップ見直し。					5点	
15	定期テスト全頭25分					60点	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90~100点)/B評価(80~89点)/C評価(70~79点) D評価(60~69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0~59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	美容総合技術Ⅳ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	半沢・佐々木・飯野・松永
学科・コース	美容師科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時間	後期 月・火・水
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
国家試験課題を長きに渡り指導する中で合格に導くノウハウを蓄積した教員が、実技第2課題であるオールウェーブセッティング技術を合格レベルに到達させる授業を行う。美容師への第一歩となる資格試験合格へ向け前期に習得した基礎にのっとりさらに完成度の高い作品をつくる。							
【授業を通じての到達目標】							
国家試験合格レベルの作品を全頭23分で仕上げる。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	正しい構成の確認					4	
2	ウェーブとリッジの完成度を高める					4	
3	中央の分け取り線とカールの接続を覚える					4	
4	カールの大きさとステム・おさまり・ピニングの強化					4	
5	6・7段目カールスペースとピニング強化					4	
6	全頭のスピードアップ 15分に挑戦する						
7	中間テスト 国家試験と同採点をして合否判定レベルを知る					20	
8	国家試験第2課題						
9	国家試験第2課題						
10	国家試験第2課題						
11	国家試験第2課題						
12	国家試験第2課題						
13	国家試験第2課題						
14	国家試験第2課題						
15	国家試験第2課題					60	
【特記事項】				【評価について】			
●評価は、模擬試験の成績等も加味して総合判断する。				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点(模擬試験の成績を考慮) 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点)/E評価(出席不良・評価資格喪失)/ F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	文化論Ⅱ	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	半沢 幸子
学科・コース	美容師科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
						曜日・時間	水 金
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
文化論教員資格認定を受けた講師が、文化論の講義をする。日本、西洋の理容業、美容業の歴史を理解し、さらに髪型、化粧、服装の変遷流行を学ぶ。そこに見える風俗と時代背景とのつながりを読み解き、流行のメカニズムを知る、これからの時代のデザインを起こすヒントを得る。美容師国家試験科目の一つであるので、意欲的に取り組み修得するものとする。							
【授業を通じての到達目標】							
西洋のファッション文化史を古代から現代(2010年代)について、また、和装、洋装の礼装について学び理解する。 美容師国家試験に向けて適切な記述ができるようにする。							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
文化論教科書、シラバス、コマシラバス、配布プリント							
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	第4章 ファッション文化史 西洋編 1、古代エジプト 2、古代ギリシャ・ローマ 3、古代ゲルマン					2	
2	第4章 4、中世ヨーロッパ					2	
3	第4章 5、近世(16世紀) 6、近世(17世紀) 7、近世(18世紀)					2	
4	第4章 8、近代(18世紀末～19世紀初め) 9、近代(19世紀) 10、現代(1910年代～1920年代) 11、現代(1930年代～1940年代前半)					2	
5	第4章 12、現代(1940年代後半～1950年代) 13、現代(1960年代) 14、現代(1970年代) 15、現代(1980年代) 16、現代(1990年代～2010年)					2	
6	中間試験 対策授業						
7	中間試験 第4章 ファッション文化史 西洋編 より出題					中間試験 20点	
8	第5章 礼装の種類					2	
9	全範囲 練習問題 回答・解説					2	
10	全範囲 練習問題 回答・解説					2	
11	全範囲 練習問題 回答・解説					2	
12	全範囲 練習問題 回答・解説					2	
13	定期試験 対策授業 前編						
14	定期試験 対策授業 後編						
15	定期試験 <第1章～第5章までの国家試験レベルの問題>					定期試験 60点	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点			
				●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格)			
				●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			

科目名 (英)	health science	必修 選択	必須	年次	2	担当教員	米山 乃生子
	保健Ⅲ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	後期
学科・コース	美容師科			曜日・時間	水曜日/金曜日		
【学習の目的】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する)							
<p>保健学は解剖学と生理学を合わせたような科目です。以前は「解剖生理学」という事もありました。  私は、大学で解剖学、生理学を学び、卒業後は薬の業界から臨床へ、その後教育の場へ、同科目の教育については、登録販売者・歯科助手・歯科衛生士・美容師を育てる専門学校にて20年ほど携わって来ました。  この科目は人体を取扱う職業人として、当たり前には持っていなければならない知識と言えます。  美容師を目指す皆さんに必要な身体の形(構造)=解剖学と身体の働き(機能)=生理学を楽しみながら学んでもらいたいです。  知らないことを知る！それが専門課程の勉強です。知的好奇心を全開に学習に臨んでください。</p>							
【授業を通じての到達目標】							
<p>美容とは美しく変容させること。  美しさとは内側と外側の連携にて表れる現象です。  どんなに素晴らしい化粧品を使っても、肌がボロボロでは活かせません。  疲れや悩みで表情が沈んでいては映えません。  お客様や身近な人の健康や栄養、静養方法などの相談に応えられる美容師を目指します。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
・保健学教科書・配布資料(化粧品の対象となる人体各部の性状、アレルギーなど)				復習を1科目1時間を目安に行う。			
回	授 業 概 要					テスト配点	
1	「血液循環」「リンパ系」の復習					2	
2	「呼吸器系」の復習					2	
3	「神経系」「感覚器系」の復習					2	
4	「筋系」の復習					2	
5	「骨格器系」の復習					2	
6	「頭頸部の体表解剖学」の復習					2	
7	ホルモンを分泌する器官とホルモン、ホルモンバランスと男女差					中間テスト 20	
8	「皮膚と皮膚付属器官の構造」復習					1	
9	「皮膚と皮膚付属器官の機能」の復習					2	
10	「体内病変と皮膚、皮膚に症状が出る全身疾患」の復習					2	
11	「精神と皮膚」「抜毛癖・咬爪症」					1	
12	「皮膚の腫瘍」「がん」					2	
13	保健学「人体の構造及び機能・皮膚科学」定期試験(模擬試験①)					0	
14	保健学「人体の構造及び機能・皮膚科学」定期試験(模擬試験②)					0	
15	保健学「人体の構造及び機能・皮膚科学」定期試験(本試験)					60	
【特記事項】				【評価について】			
				●小テスト20点、中間テスト20点、定期試験60点 計100点満点 ●評価 A評価(90～100点)/B評価(80～89点)/C評価(70～79点) D評価(60～69点) E評価(出席不良・評価資格喪失)/F評価(0～59点・不合格) ●評価方法 評価基準に関しては別紙「授業評価表」に則り、点数化し評価する。			